

「御国が来ますように」 ～あなたの内側 頑な！！！！～

マルコ 3:1～6

■ はじめに

ある研究で猿はびっくりした瞬間、二つのうちどちらにいくかという実験がありました。一つは、猿の顔写真を貼り、体となる部分には毛布を沢山巻いたものです。もう一つは、猿の大好物のミルクを置きました。どうなったのかというと、猿は、とっさに同じ猿の顔をした毛布の方に行きました。このように、生きるのに必要な方ではなく、自分が安心する方に行ったのです。私達は何かが起こった時、物に目を向けるのでしょうか？安心に目を向けるのでしょうか？本来は、安心に行くのですが、私達人間はこのことがズレています。これは「頑なな心」が、素直を選ばず、間違った目線でものごとを選んでしまうからです。

「頑固」と「頑な」の違い。「頑固さ」とは、こだわり・譲れない技術や思いです。一方「頑な」は、間違ったものから生まれてくるものです。あるコラムがあります。ある牧師のお父さんが、子どもが1万円を盗んだ時にどうしたかという記事です。お父さんは、いつも自分の物を管理し、よく見ていたので自分の財布の中身がいくらあるのかをいつもわかっていました。ある日あるはずの1万円札が無くなっており、すぐに誰が取ったのかわかりました。牧師であるお父さんは息子にどう伝えようか祈り、「もし、本当にお金が必要ならお父さんに言いなさい。」と、これだけ伝えました。息子は、「父は気づいて見ている。そんな父が怒らなかつたのなら、僕は二度としたりいけなない。」と二度とすることはありませんでした。お父さんは、与えられているものをいつも管理し、見ており、息子のこともとてもよく理解していたので、何か問題が起こったその必要な時に、その子に一番いい方法をとる事ができたのです。後に、お父さんは「息子にもし、どうして取ったのかと聞いたら、取ってないと言うだろう。父として、息子に嘘をつかせたらいけないと思った。」と言っていたそうです。息子に罪を犯させないようにと、しかし犯したら悔い改める機会を与えました。「頑な」な心を私たちがどのように知り、どのように解決したら良いのでしょうか？また、ある牧師先生のお話のように、相手が「頑な」な心にならず、素直になれる為にはどのようにしたら良いのでしょうか？

■ 再生を与えて下さる神

マルコの福音書の一つ一つのストーリーは創世記から十字架の救いまでの完成があります。

マルコ 3:1 で【また】という言葉が使われています。これは、(シューヴ: 帰る・戻す)、追い出されて失われたものがもう一度戻るという意味です。創世記でアダムとエバは罪の為に、『あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。』(創 3:19)と言われました。このちりに帰ると同じ原語が使われているのです。つまり、ここには、(人々が失ってもまた戻す。)あなたがどれだけ失敗しても神は戻ってこれるとということです。アダムとイヴはエデンの園から追放されました。また私達も神の家から出た者です。しかし、その私達のもとに神はもう一度来てくださり、再生を与えて下さいます。神は私達をいつでも再び発させたいと願っておられます。

マルコ 3:1 『…そこに片手のなえた人がいた。』

[片手とは、(ヤード: いのちの木に手を伸ばす)] という意味があり、[なえた人がいた。は、(ヤヴェーシュ: 枯れる・しなびる)] という意味があります。これと同じ言語が使われているノアの箱舟の記事(創 8:7)で、『鳥を放った。するとそれは、水が地からかわききる(ヤヴェーシュ)まで、出たり、戻ったりしていた。』とあり、ここにはいのちの木に手をのぼして手がなえた・枯れ果てた人にイエスは再び来られという意味があるのです。

■ 待ち伏せしている存在

マルコ 3:2 「彼らは、イエスが安息日にその人を直すかどうか、じっと見ていた。イエスを訴えるためであった。」

彼らのじっと見ていたその目には、殺意がありました。じっと見るというのは〔(アーラヴ: 待ち伏せる)〕という状態です。これは申命記の(申 19:11～12)『(11)しかし、もし人が自分の隣人を憎み、待ち伏せして襲いかかり、彼を打って、死なせ、これらの町の一つにのかれるようなことがあれば、(12)彼の町の長老たちは、人をやって彼をそこから引き出し、血の復讐をする者の手に渡さなければならない。彼は死ななければならない。』という御言葉待ち伏せして襲いかかりと同じ原語が使われています。つまりじっと見る(待ち伏せる)を企てて殺そうとしていたのです。

マルコ 3:4 それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか、それとも殺すことなのか」と言われた。イエス様が言われた殺すことなのかというのは、彼らの心を知っておられたからです。心が大切なのです。外側でいくら着飾り正しく振舞っているように見せていても、結果の表れであって意味がありません。それは嘘を言ってしまっただけ悔むこともそうです。自分の心をごまかそうとしていることが悪いのです。彼らが見ていたというのは、殺人です。「あんなやついなければいいのに。」

という心も同じです。イエスがこれらのことを言われた時(マルコ 3:4)、彼らの心は頑なだった為に悟りませんでした。「彼らは黙っていた。」(ハーラシュ: 彫り込む・細工する)》

という意味があり、同じ言語が使われている箇所(創世記 4:22)、ここにはカインはアベルを殺した後、鍛冶屋となり、細工するもの・飾るものになりました。カインはアダムを殺した時も神に対して、巧みに細工をしました。私達には着飾り細工する心はないでしょうか？神様が喜ばれるのは結果ではなく、どんな思いでそれをしたかです。上手い出来ない時や実が結ばれない時は、あなたの心が整うように神様が訓練をしておられます。神様の前に出て、手を合わせましょう。祈る時のこの行為は、すぐに不必要な事をしてしまう私達の手を勝手なことをさせず、真つすぐに素直な心を見る事ができるようになります。

■ その心の頑な

マルコ 3:5 『イエスは怒って彼らを見回し、その心のかたくなさを嘆きながら、』

イエス様は怒って彼らを見回された。(見回し(ナーヴァト: 目を留める))これは、見上げるということです。創世記 15:5 『そして、彼を外に連れ出して仰せられた。』「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」この箇所、子どもが与えられないアブラハムに対して、神様はこのように語られました。そしてアブラハムは それを信じました。イエス様も、自分を殺そうと「じっと見ている」パリサイ人達の存在と彼らの悪巧み・細工を知っていました。しかし、イエス様は、アブラハムが星空を見上げて神の計画を信じたように、パリサイ人が救われるのを信じたのです。彼らが、このようにしてしまった原因は、【かたくな】でした。

■ 頑なな心を嘆きながらイエスは…

マルコ 3:3 「イエスは手のなえたその人に「立って真ん中に出なさい」と言われた。』

「立って真ん中に出なさい」とは、(クーム: 神に仕え交わる アマード: 立つ・耐える)=[区別判断] という意味があります。

手のなえた人は、周りから罪人の実だといわれている人で、ユダヤ人でパリサイ人の側にいました。しかしイエスは、その男を真ん中に立たせ、神に仕えるものになりなさい。と区別判断がされたのです。今まで、パリサイ人側にいた彼にとって、そこから取り分けられ、区別されるのは忍耐のいるものでした。私達も教会にきて神を信じるもの・仕えるものとして区別し取り分けられています。

マルコ 3:5 『その人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。』

「手を伸ばしなさい」というのは(パーシャト: 脱ぐ・突撃する) という意味があります。

(創世記 37:23) 『ヨセフが兄たちのところに来たとき、彼らはヨセフの長服、彼が着ていたそでつきの長服をはぎ取り、』(パーシャト: 脱ぐ・突撃する) ヨセフは長い年月をかけて、彼の「頑な」をやめた。すべてを脱ぎ捨てて、自分を殺そうとした兄弟の元に走り寄りました。[元どおりになった(シューブ)→御国の民として造り変えられることを指し示しています。]

最後に

彼が手を差し伸べる行為は、[片手(ヤード: いのちの木に手を伸ばす)] [なえた人がいた。(ヤヴェーシュ: 枯れる・しなびる)] ノアの箱舟で鳥が放たれ、出たり戻ったりしている場所です(創 8:7)。鳥が降り立った乾いた地と、手がなえ、枯れてるのと同じ言葉が使われています。

アダムとイヴの罪以降、人の罪が増大していき、そして洪水が起こり、すべてが流されました。水が引き、地は乾ききった。乾ききった手が、神にいのちの救いの手を差し伸べました。

アダムとイヴがいのちの木に手を伸ばす行為(ヤード)と、人の目の前に立った第2のアダムであるイエスキリストに罪びとが手を差し伸べる行為は同じです。

人は罪によっていのちを失い、神は、その人が手を伸ばし罪を犯したその方法で、救いの手を差し伸べます。このように神は理不尽の中で救われるのです。理不尽の究極が十字架です。

私達は「頑な」をやめなければいけません。自己中心でも私に手を伸ばしなさいと言って下さっている方に手を伸ばすのか、それでも頑なにじっと見るのか。あなたはどちらを選びますか？

(要約者: 富岡 牧)

(2022年9月4日)